

# 投資信託説明書 (交付目論見書)

使用開始日 2019.4.27



自分だけの投資スタイル、探せる、見つかる。  
ノーロード・インデックスファンド・シリーズ。

**eMAXIS**  
イーマaxis

eMAXIS専用サイト <https://emaxis.jp/>

## eMAXIS JAPAN クオリティ 150インデックス

追加型投信／国内／株式／インデックス型

※ご購入に際しては、本書の内容を十分にお読みください。

商品分類				属性区分				
単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産(収益の源泉)	補足分類	投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	対象インデックス
追加型	国内	株式	インデックス型	その他資産	年1回	日本	ファミリーファンド	その他 (iSTOXX MUTB JAPAN クオリティ150インデックス)

※属性区分の「投資対象資産」に記載されている「その他資産」とは、投資信託証券(株式 一般)です。

※商品分類および属性区分の内容については、一般社団法人投資信託協会のホームページ(<http://www.toushin.or.jp/>)でご覧いただけます。

- 本書は、金融商品取引法第13条の規定に基づく目論見書です。
- ファンドに関する投資信託説明書(請求目論見書)を含む詳細な情報は、委託会社のホームページで閲覧、ダウンロードできます。
- 本書には、約款の主な内容が含まれていますが、約款の全文は請求目論見書に掲載されています。
- ファンドの商品内容に関して重大な変更を行う場合には、投資信託及び投資法人に関する法律に基づき事前に受益者の意向を確認します。
- ファンドの財産は、信託法に基づき受託会社において分別管理されています。
- 請求目論見書は、販売会社にご請求いただければ当該販売会社を通じて交付いたします。(請求目論見書をご請求された場合は、その旨をご自身で記録しておくようお願いいたします。)

この目論見書により行う「eMAXIS JAPAN クオリティ150インデックス」の募集については、委託会社は、金融商品取引法第5条の規定により有価証券届出書を2019年4月26日に関東財務局長に提出しており、2019年4月27日に効力が生じております。

### 委託会社:三菱UFJ国際投信株式会社

ファンドの運用の指図等を行います。

金融商品取引業者:関東財務局長(金商)第404号

設立年月日:1985年8月1日

資本金:20億円

運用投資信託財産の合計純資産総額

13兆8,565億円  
(2019年1月31日現在)

ホームページアドレス

<https://www.am.mufg.jp/>

お客さま専用フリーダイヤル

0120-151034 (受付時間:営業日の9:00~17:00)

### 受託会社:三菱UFJ信託銀行株式会社

ファンドの財産の保管・管理等を行います。

# ファンドの目的・特色

## ファンドの目的

iSTOXX MUTB JAPAN クオリティ150インデックスに連動する投資成果をめざします。

## ファンドの特色

特色

1

iSTOXX MUTB JAPAN クオリティ150インデックスに連動する投資成果をめざして運用を行います。

- iSTOXX MUTB JAPAN クオリティ150インデックスをベンチマークとします。

<iSTOXX MUTB JAPAN クオリティ150インデックスについて>

iSTOXX MUTB JAPAN クオリティ150インデックスとは、東京証券取引所を主たる市場とする普通株式等の中から時価総額、流動性によりスクリーニングされる投資ユニバースのうち、高ROEかつ、①財務健全性、②キャッシュフロー収益性、③利益安定性の3点に着目し、高ROEの継続性を評価して150銘柄を選定し算出される株価指数です。

iSTOXX MUTB JAPAN クオリティ150インデックスは、三菱UFJ信託銀行が有するアクティブ運用機関としてのノウハウとSTOXXリミテッド(以下「STOXX社」)が有する指数提供機関としての経験を活用し、両社で共同開発したものです。2001年6月18日の時価総額を100として、STOXX社が算出・公表しています。

📄 ROE(自己資本利益率)とは、Return on Equityの略で、1株当たり当期純利益を1株当たり自己資本で割って算出されます。この数値が高いほど企業の収益力は高いと評価されます。

🏢 STOXX社とは  
1997年設立。ドイツ取引所の100%子会社で、スイスのチューリッヒに本社を構える指数開発・提供の専門会社。

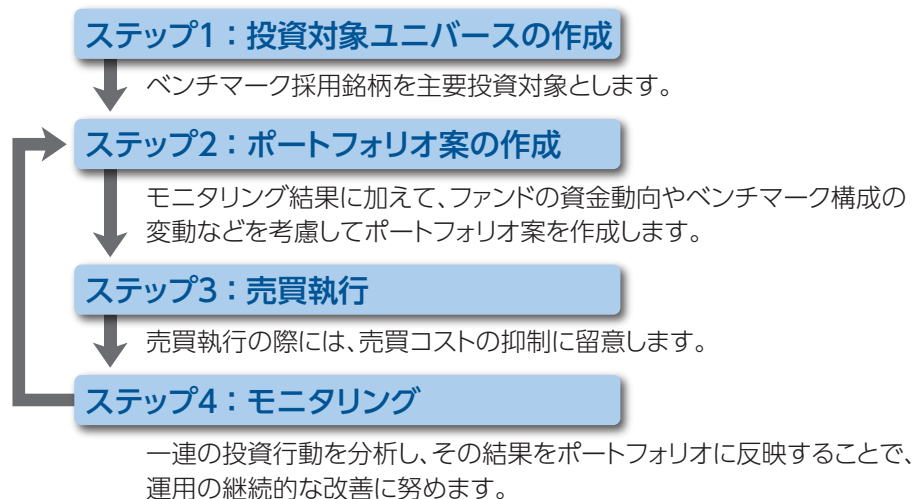
特色

2

JAPAN クオリティ150インデックスマザーファンドへの投資を通じて、わが国の金融商品取引所上場株式(上場予定株式を含みます。)に実質的な投資を行います。

- 対象インデックスとの連動を維持するため、先物取引等を利用し株式の実質投資比率が100%を超える場合があります。

<運用プロセスのイメージ>

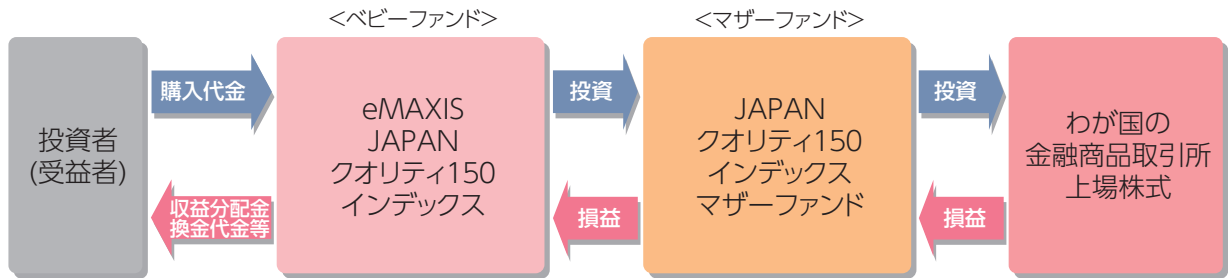


❗ 上記の運用プロセスは変更される場合があります。また、市場環境等によっては上記のような運用ができない場合があります。

📄 「運用担当者に係る事項」については、委託会社のホームページ(<https://www.am.mufig.jp/corp/operation/fm.html>)をご覧ください。

## ■ ファンドの仕組み

運用は主にJAPAN クオリティ150インデックスマザーファンドへの投資を通じて、わが国の金融商品取引所上場株式へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。



## ■ 主な投資制限


株式	株式への実質投資割合に制限を設けません。
外貨建資産	外貨建資産への実質投資割合は、信託財産の純資産の10%以下とします。
デリバティブ	デリバティブの使用はヘッジ目的に限定しません。

## ■ 分配方針

- 年1回の決算時(1月26日(休業日の場合は翌営業日))に分配金額を決定します。
- 分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

 「iSTOXX MUTB JAPAN クオリティ150インデックス」の免責事項について  
 STOXX社、ドイツ取引所グループ及びこれらのライセンサー、関連調査会社又はデータ提供会社は、本金融商品に関してiSTOXX MUT B JAPAN クオリティ150インデックス(以下「対象インデックス」)及び関連商標を利用するライセンスを付与することを除き、ライセンスである当社と一切の関係を有していません。

STOXX社、ドイツ取引所グループ及びこれらのライセンサー、関連調査会社又はデータ提供会社は、以下のことを行うものではありません。

- 本金融商品を支援、推奨、販売又は宣伝すること
- 本金融商品又はその他の証券への投資を勧めること
- 本金融商品についてタイミング、数量若しくは価格について責任若しくは義務を負ったり、又はこれらについての何らかの意思決定を行うこと
- 本金融商品の管理、運営又はマーケティングについて、何らかの責任や義務を負うこと
- 対象インデックスの決定、組成若しくは計算にあたり、本金融商品へのニーズ若しくは本金融商品の保有者を考慮すること、又はそのような考慮をすべき義務を負うこと
- 対象インデックスのメソドロジー若しくは基本運営方針について何らかの責任若しくは義務を負ったり、又は対象インデックスがテイラーメイドされたもので、かつ(構成銘柄の定義、計算及びバリュエーション・メソドロジー、適応ディスカウント(該当する場合)等の)対象インデックスの特徴がライセンサーが定義した要件のみに基づいているかといった指数の投資適切性について、明示若しくは黙示に何らかの意見を表明すること

STOXX社、ドイツ取引所グループ及びこれらのライセンサー、関連調査会社又はデータ提供会社は、本金融商品又はその運用成果に関連して、何ら保証するものではなく、かつ(過失の有無を問わず)いかなる責任も負うものではありません。

又、STOXX社は、本金融商品の購入者又は他のいかなる第三者との間でも、何ら契約上の関係を有していません。具体的には、

- STOXX社、ドイツ取引所グループ及びこれらのライセンサー、関連調査会社又はデータ提供会社は、以下について、何ら明示又は黙示の保証を行うことなく、かつあらゆる責任を否認します。
  - » 対象インデックス及びそれに包含されるデータの利用に関連し、本金融商品、その保有者又は他のいずれかの者が取得すべき成果
  - » 対象インデックス及びそのデータの正確性、適時性及び完全性
  - » 対象インデックス及びそのデータの商品性、並びに特定の目的又は使用への適合性
  - » 本金融商品の運用成果一般
- STOXX社、ドイツ取引所グループ及びこれらのライセンサー、関連調査会社又はデータ提供会社は、対象インデックス又はそのデータに関するエラー、遺漏又は中断について、何ら保証するものではなく、かつ一切の責任を負いません。
- STOXX社、ドイツ取引所グループ及びこれらのライセンサー、関連調査会社又はデータ提供会社は、いかなる状況の下でも、対象インデックス若しくはそのデータにおけるか、若しくは本金融商品に一般的に関連するエラー、遺漏若しくは中断の結果として生じる逸失利益又は間接的、懲罰的、特別若しくは結果的な損害若しくは損失について、一切の責任を負いません。これは、たとえSTOXX社、ドイツ取引所グループ及びこれらのライセンサー、関連調査会社又はデータ提供会社がそうした損失若しくは損害が発生しうることを認識していた場合であっても同様です。

当社とSTOXX社との間のライセンス契約は、専ら両者の利益を図るためのものであって、本金融商品の保有者又は他いかなる第三者の利益を図るものでもありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。



# 投資リスク

## ■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

### 価格変動 リスク

一般に、株式の価格は個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動するため、ファンドはその影響を受け組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。

### 信用リスク

組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。

### 流動性 リスク

有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

## ■その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。
- ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。

## ■リスクの管理体制

ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っています。

また、定期的開催されるリスク管理に関する会議体等において、それらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を審議しています。

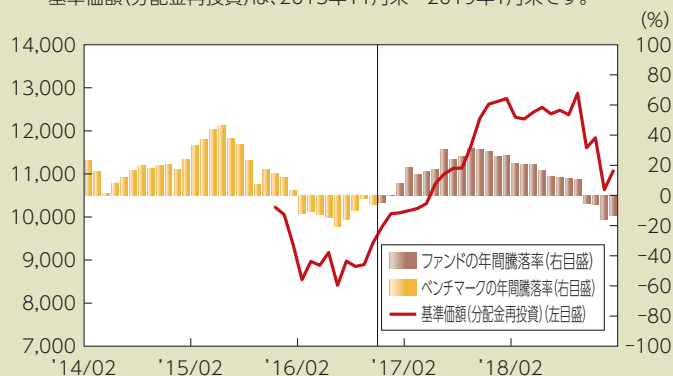


## ■代表的な資産クラスとの騰落率の比較等

下記のグラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

### ● ファンドの年間騰落率および基準価額(分配金再投資)の推移

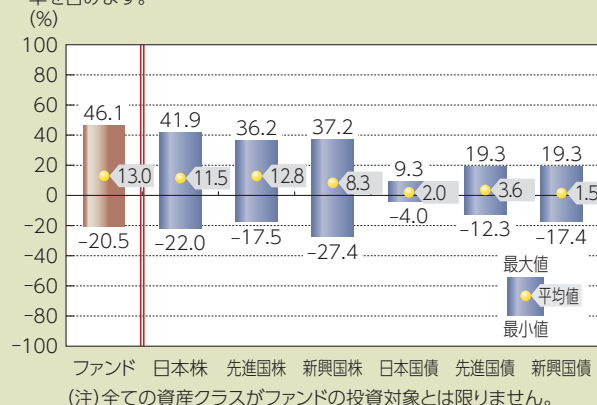
ファンドの年間騰落率は、2016年11月～2019年1月です。  
ベンチマークの年間騰落率は、2014年2月～2016年10月です。  
基準価額(分配金再投資)は、2015年11月末～2019年1月末です。



### ● ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較

(2014年2月末～2019年1月末)

ファンドの年間騰落率はベンチマーク(2016年10月以前)の年間騰落率を含みます。



- 基準価額(分配金再投資)は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと計算しており、実際の基準価額とは異なる場合があります。
- 年間騰落率とは、各月末における直近1年間の騰落率をいいます。
- ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

**ベンチマークの年間騰落率は参考情報であり、ファンドの運用実績ではありません。**

**上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。**

### 代表的な資産クラスの指数について

資産クラス	指数名	注記等
日本株	TOPIX(配当込み)	TOPIX(配当込み)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数(TOPIX)に、現金配当による権利落ちの修正を加えた株価指数です。TOPIX(配当込み)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIX(配当込み)の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIX(配当込み)の算出もしくは公表の停止またはTOPIX(配当込み)の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み)	MSCIコクサイ・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)	MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み)とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。
日本国債	NOMURA-BPI(国債)	NOMURA-BPI(国債)とは、野村証券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI(総合)のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本)	FTSE世界国債インデックス(除く日本)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド	JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当該指数の著作権はJ.P.モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。

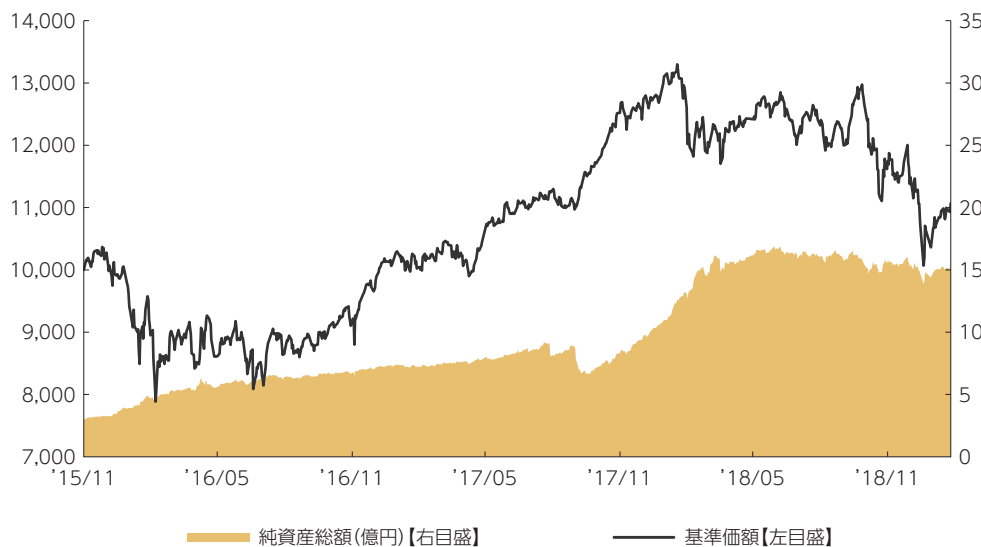
(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。



# 運用実績

2019年1月31日現在

## ■基準価額・純資産の推移 2015年11月6日(設定日)～2019年1月31日



- 基準価額は10,000を起点として表示
- 基準価額は運用報酬(信託報酬)控除後です。

## ■基準価額・純資産

基準価額	11,068円
純資産総額	15.2億円

## ■分配の推移

2019年1月	0円
2018年1月	0円
2017年1月	0円
2016年1月	0円
設定来累計	0円

●分配金は1万口当たり、税引前

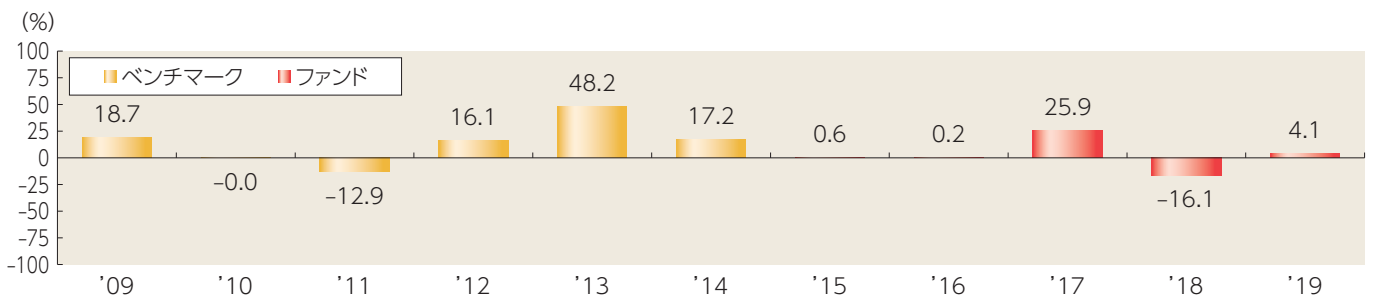
## ■主要な資産の状況

組入上位業種	比率	組入上位銘柄	業種	比率
1 電気機器	19.5%	1 ファナック	電気機器	2.2%
2 化学	12.6%	2 日立製作所	電気機器	2.1%
3 情報・通信業	10.7%	3 KDDI	情報・通信業	2.1%
4 食料品	7.7%	4 日本電信電話	情報・通信業	2.0%
5 医薬品	7.5%	5 NTTドコモ	情報・通信業	2.0%
6 輸送用機器	7.0%	6 東京海上ホールディングス	保険業	2.0%
7 サービス業	6.0%	7 信越化学工業	化学	2.0%
8 機械	5.6%	8 トヨタ自動車	輸送用機器	2.0%
9 保険業	5.2%	9 日本たばこ産業	食料品	2.0%
10 小売業	4.7%	10 村田製作所	電気機器	2.0%

その他資産の状況	比率
株価指数先物取引 (買建)	0.7%

- 各比率はファンドの純資産総額に対する投資比率(小数点第二位四捨五入)
- 国内株式の業種は、東京証券取引所の33業種分類によるもの

## ■年間収益率の推移



- 収益率は基準価額で計算
- 2015年は設定日から年末までの、2019年は年初から1月31日までの収益率を表示
- 2014年以前はベンチマークの年間収益率を表示

上記は、過去の実績であり、将来の投資成果を保証するものではありません。  
ベンチマークはあくまで参考情報であり、ファンドの運用実績ではありません。  
運用状況等は、委託会社のホームページ等で開示している場合があります。



# 手続・手数料等

## ■お申込みメモ

 購入時	購入単位	販売会社が定める単位 販売会社にご確認ください。
	購入価額	購入申込受付日の基準価額 ※基準価額は1万円当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
	購入代金	販売会社が指定する期日までにお支払いください。
 換金時	換金単位	販売会社が定める単位 販売会社にご確認ください。
	換金価額	換金申込受付日の基準価額
	換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目から販売会社においてお支払いします。
 申込について	申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
	購入の申込期間	2019年4月27日から2020年4月24日まで ※申込期間は、上記期間満了前に有価証券届出書を提出することによって更新される予定です。
	換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
	購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。
 その他	信託期間	無期限(2015年11月6日設定)
	繰上償還	以下の場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。 ・受益権の口数が10億口を下回るようになった場合 ・対象インデックスが改廃されたとき ・ファンドを償還させることが受益者のため有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
	決算日	毎年1月26日(休業日の場合は翌営業日)
	収益分配	年1回の決算時に分配金額を決定します。(分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。) 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
	信託金の限度額	5,000億円
	公告	原則として、電子公告の方法により行い、ホームページ( <a href="https://www.am.mufg.jp/">https://www.am.mufg.jp/</a> )に掲載します。
	運用報告書	毎決算後および償還後に交付運用報告書が作成され、販売会社を通じて知れている受益者に交付されます。
	課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。 公募株式投資信託は税法上、「NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)」の適用対象です。 配当控除の適用があります。益金不算入制度の適用はありません。



# 手続・手数料等

## ■ファンドの費用・税金



### ファンドの費用

#### 投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。

#### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 (信託報酬)	日々の純資産総額に対して、 <b>年率0.432% (税抜 年率0.4%) 以内</b> をかけた額 ※消費税率が10%となった場合は、 <b>年率0.44% (税抜 年率0.4%) 以内</b> となります。																			
	1万口当たりの信託報酬：保有期間中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (保有日数 / 365)																			
	※上記の計算方法は簡便法であるため、算出された値は概算値になります。																			
	信託報酬率(税抜)の合計ならびに配分(委託会社および販売会社、受託会社)は、ファンドの純資産総額に応じて以下の通りとなります。																			
	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ファンドの純資産総額に応じて</th> <th colspan="3">信託報酬率(年率)</th> </tr> <tr> <th>合計</th> <th>委託会社および販売会社</th> <th>受託会社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>500億円未満の部分</td> <td><b>0.4%</b></td> <td>0.35%</td> <td>0.05%</td> </tr> <tr> <td>500億円以上1,000億円未満の部分</td> <td><b>0.38%</b></td> <td>0.34%</td> <td>0.04%</td> </tr> <tr> <td>1,000億円以上の部分</td> <td><b>0.36%</b></td> <td>0.33%</td> <td>0.03%</td> </tr> </tbody> </table>	ファンドの純資産総額に応じて	信託報酬率(年率)			合計	委託会社および販売会社	受託会社	500億円未満の部分	<b>0.4%</b>	0.35%	0.05%	500億円以上1,000億円未満の部分	<b>0.38%</b>	0.34%	0.04%	1,000億円以上の部分	<b>0.36%</b>	0.33%	0.03%
	ファンドの純資産総額に応じて		信託報酬率(年率)																	
		合計	委託会社および販売会社	受託会社																
	500億円未満の部分	<b>0.4%</b>	0.35%	0.05%																
	500億円以上1,000億円未満の部分	<b>0.38%</b>	0.34%	0.04%																
	1,000億円以上の部分	<b>0.36%</b>	0.33%	0.03%																
委託会社および販売会社への配分(税抜)は、次の通りです。																				
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>各販売会社における取扱純資産総額に応じて</th> <th>委託会社</th> <th>販売会社</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50億円未満の部分</td> <td rowspan="3">信託報酬率から 販売会社および受託会社の 配分率を差し引いた率</td> <td>0.175%</td> </tr> <tr> <td>50億円以上100億円未満の部分</td> <td>0.185%</td> </tr> <tr> <td>100億円以上の部分</td> <td>0.195%</td> </tr> </tbody> </table>	各販売会社における取扱純資産総額に応じて	委託会社	販売会社	50億円未満の部分	信託報酬率から 販売会社および受託会社の 配分率を差し引いた率	0.175%	50億円以上100億円未満の部分	0.185%	100億円以上の部分	0.195%										
各販売会社における取扱純資産総額に応じて	委託会社	販売会社																		
50億円未満の部分	信託報酬率から 販売会社および受託会社の 配分率を差し引いた率	0.175%																		
50億円以上100億円未満の部分		0.185%																		
100億円以上の部分		0.195%																		
※上記各支払先への配分には、別途消費税等相当額がかかります。																				
<各支払先が運用管理費用(信託報酬)の対価として提供する役務の内容>																				
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>支払先</th> <th>対価として提供する役務の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委託会社</td> <td>ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等</td> </tr> <tr> <td>販売会社</td> <td>交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等</td> </tr> <tr> <td>受託会社</td> <td>ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等</td> </tr> </tbody> </table>	支払先	対価として提供する役務の内容	委託会社	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等	販売会社	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等	受託会社	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等												
支払先	対価として提供する役務の内容																			
委託会社	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等																			
販売会社	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等																			
受託会社	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等																			
その他の費用・手数料	<p>以下の費用・手数料についてもファンドが負担します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・監査法人に支払われるファンドの監査費用</li> <li>・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料</li> <li>・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用</li> <li>・その他信託事務の処理にかかる諸費用 等</li> </ul> <p>※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。</p>																			

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。





## 税金

税金は以下の表に記載の時期に適用されます。この表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税および地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%
換金(解約)時および償還時	所得税および地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して20.315%

※上記は2019年1月末現在のものです。

※「NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)」をご利用の場合

毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。くわしくは、販売会社にお問合わせください。

※確定拠出年金法に定める加入者等の運用の指図に基づいて購入の申込みを行う資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合、所得税および地方税がかかりません。なお、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。

※法人の場合は上記とは異なります。

※税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等に確認されることをお勧めします。







目論見書を読み解くガイド

<https://www.am.mufg.jp/service/faqpoint/index.html>